

第38回
新潟市伝承芸能保存会
郷土芸能公演

郷土芸

特別ゲスト

和楽器ユニット

音魂



松浜盆踊り太鼓保存会



沼垂木遣太鼓会



酒屋御神楽保存会



赤塚太々神楽保存会



新潟松坂保存会



新潟万代太鼓振興会

協力団体 司会：桐生 淳子

山ノ下木遣保存会 / 鳥屋野六階節保存会 / 酒屋御神楽保存会
越後追分保存会 / 新潟松坂保存会 / 新崎甚句保存会
赤塚太々神楽保存会 / 新崎伊佐弥神楽保存会 / 長潟藻たぐり甚句保存会
沼垂木遣太鼓会 / 新潟万代太鼓振興会 / 松浜盆踊り太鼓保存会

主催 新潟市伝承芸能保存会

共催 (公財)新潟市芸術文化振興財団

後援 新潟市、新潟市教育委員会、新潟日报社、NHK新潟放送局
BSN新潟放送、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21
NST新潟総合テレビ

特別協賛 株式会社 鳥屋野不動産

事務局 〒950-2042 新潟市西区坂井788
山川 潤 電話 090-1613-3600



令和8年

6月14日(日)

開場：12：30

開演：13：00 (16：30終演予定)

新潟市民芸術文化会館
りゅーとぴあ 劇場

※申し込み不要・撮影可
(フラッシュのご使用はご遠慮願います。)



新潟市伝承芸能保存会
YouTubeチャンネル

プログラム

オープニング

山ノ下木遣保存会
沼垂木遣太鼓会

開演 挨拶

一、新潟万代太鼓振興会
若藤会・龍の子会

二、山ノ下木遣り保存会

三、越後追分保存会

四、新潟松坂保存会

五、鳥屋野六階節保存会

六、長潟藻手繰り甚句保存会

七、新崎甚句保存会

八、音魂

九、赤塚太々神楽保存会

十、酒屋御神楽保存会

十一、沼垂木遣太鼓会

十二、新崎伊佐弥神楽保存会

十三、松浜盆踊り太鼓保存会

閉会 挨拶

郷土芸能公演ご挨拶

新潟市伝承芸能保存会会長 上野 喜政



新潟市郷土芸能公演では、地域ごとに受け継がれてきた舞や囃子、唄など、多彩な伝承芸能を披露いたします。先人たちの願いや暮らしの中で育まれてきた郷土の文化に触れ、その魅力を感じていただければ幸いです。出演者一同、日頃の研鑽の成果を込めて演じます。最後までごゆっくりお楽しみください。

各会演目解説

一 新潟万代太鼓振興会

若藤会（藤見幼稚園OB） 龍の子会（藤見幼稚園児）

昭和四十三年当時の新潟商工会議所会頭和田閑吉氏の命により、新潟祭りの新たな太鼓として誕生し、信濃川・阿賀野川の豊かな水と、背後に広大な穀倉越後平野を有し、日本海側の拠点都市として発展する新潟市の繁栄、そして市民の幸福と平和、五穀豊穡と豊漁を祈願し新潟市のシンボルである万代橋から名を頂き「万代太鼓」と命名され、故小泉光司氏を中心に昭和四十四年「万代太鼓飛龍会」が正式に発足。現在では新潟市の郷土芸能として定着しています。本日は藤見幼稚園・龍の子会と、OBの若藤会が演奏致します。

〈演目〉みなと太鼓、他（二十分）

明治元年、日本五大港として開港した新潟港の賑わいを表現した曲。

〈出演者 若藤会〉

宮川 葵	佐藤 真結	島倉 昂太	山田 楓	皆川 奏多
浅井 優音	川崎 蒼太	佐藤 里緒	山田 大道	齋藤 慶裕
相馬唯緒史	浅井 弥月	小泉しずく	中川 櫻井	櫻井 慶裕
船浪 暖	渡辺 陽仁	櫻井 柊天	飯島 惟斗	中島 千依
熊倉 紬				

〈出演者 龍の子会〉

飯島 彩斗	山田 伊織	梅澤 愛莉	傳井 啓斗	今井 咲之心
土田 椿	傳刀 寧々	鈴木 結惺		

二 山の下木遣り保存会

〈演目〉山の下木遣り（十五分）

山の下木遣の謂れ

山の下木遣の発祥は、西暦一五九〇年代後半。築城や寺社の建築の際に大勢の力を統一する為の『作業唄』として木遣が唄われていたと言われ伝えられています。

豊作、豊漁を願いつつ木遣を神社や家屋の上棟式や、結婚式の祝いの席で唄うなどとして、四二〇年程前から親から子に、子から孫にと唄い継がれて来たものです。

現在、時代が移り変わっても祭礼、祝事はもちろん、力作業の音頭として生活の中に伝えられて来た芸能です。また、山の下木遣には全国的にも珍しい前木遣（大木遣）、そして、後木遣（小木遣）笛、太鼓があるのが特徴です。

〈出演者〉

宮永 正倫	葦澤 朋晃	大島 直行	小杉 勉
若槻 一宏	浅井 章	大川 直樹	近 守
和田 大輔	大野 裕明	好野 太	上原 由成

三 越後追分保存会

〈演目〉越後追分（八分）

越後追分の源流は、信州周辺の馬子唄とも小室ともいわれています。越後に伝来してからは、船頭の労働唄として独自の発展をとげました。当保存会は越後民謡の中興の祖、故鈴木節美師の直門にあたります。門下生が伝える本物の越後追分を存分にご鑑賞下さい。

〈出演者〉

芳賀 和久	今井 恵子	木村 秀雄	美濃川 節子
最上 憲夫	小沢 直樹	豊外 隆俊	小沢 みどり
土田 洋子			

四 新潟松坂保存会

〔演目〕新潟 松坂（四分）

松坂は、おけさ、甚句とならぶ越後の代表的な民謡です。伊勢の松坂が、越後に入り各地に独特のうたい方に變化し伝わってきたと言われている松坂節も、盆踊り形式（加茂松坂、新津松坂など）、と祝い唄形式（頸城松坂、魚沼松坂など）の二通りあり、新潟市に伝わる「新潟松坂」は、祝い唄形式の松坂節です。「新潟松坂」は、故鈴木節美師匠（一八九八〜一九八八）が伝えたもので、現在その門下生が中心となり保存会を結成、継承しています。

〔出演者〕

榎野 節謡	佐藤 茂子	小沢 直樹	小松 貞雄
池田 みち子	坂井 江美	戸枝 ノブ子	吉田 國子
湯口 キヨイ	新保 町子	中村 信子	

五 鳥屋野六階節保存会

〔演目〕鳥屋野六階節（八分）

越後民謡には珍しく、都を偲んだ内容の鳥屋野六階節。その伝来は、承元元年（二二〇七）に越後に流された親鸞聖人が布教の傍ら、都の舞の手振りを教え、更に承久三年（一二二二）、都を追われ佐渡に流された順徳上皇をお慰めした鳥屋野の里人が、踊り伝えて来たとされています。踊りは、序「とやの」に始まり、「あねさ」「切り込み」「なげし」「弓引き」「給え」「藤の花」の六つが続く構成になっており、京の舞を見る様な優雅な踊りが特徴です。

〔出演者〕

豊外 隆俊	美濃川 龍也	高橋 修	若林 雅
本間 久美子	浅妻 千鶴子	中野 英子	小熊 延幸
桑山 トモ子	佐藤 峰子	佐藤 泉	斎藤 仁子
佐藤 瑞枝	須磨 嘉美	植木 千春	若林 由美子
佐藤 幸恵	中村 美奈子	佐藤 真弓	佐藤 由美子
小野 照子	渋谷 輝枝		

六 長潟藻たぐり甚句保存会

〔演目〕長潟藻たぐり甚句（八分）

土地改良前の長潟・亀田郷一帯は低湿地帯で、その昔腰まで水につかって農作業して大変苦労した処です。現在道路になつてゐる処が川や堀であつて、舟で農作業や生活物資、時には病人まで乗せて町に連れて行く事もありました。その大事な川や堀に、夏近くなると藻がびつりと川面まで伸び、舟の通行が出来なくなると、各村総出の藻払い作業をしました。大鎌でガツボを刈り、水に入り、藻をたぐり寄せ舟や土手に丸めて投げ上げる、その動作を唄や踊りに取り入れて、盆踊りや酒の席で唄い踊られたのが現在に伝わっています。

〔出演者〕

須藤 千太	藤本 洋輔	佐藤 美和子	井又 美加
鶴巻 純子	豊外 隆俊		

七 新崎甚句保存会

〔演目〕新崎甚句（九分）

新崎甚句は、新崎に伝わる盆踊りで江戸時代の五大はやり唄であつた十日町の新保広大寺の流れをくむものです。同じ先祖を持つ民謡としては「八木節」などがあります。旧阿賀野川沿いには同じような形態の甚句が幾つか残っていますが、新崎甚句は、その中でも「樽・太鼓」など地方の難度が高いところが特徴です。お囃子、唄には節度があり、郷土に継がれ、誇れる芸能の一つとなつています。

〔出演者〕

高橋 泰道	岩渕 瑠那	木村 ゆかり	伊藤 良夫
古山 勝彦	佐藤 幸次	中川 喜吉	宮澤 正巳
池田 みち子	佐藤 成子	伊藤 玲子	豊崎 政子
豊崎 はるみ	真島 富江	高橋 美千代	長谷川 恵子
山田 かよ子	宇田 登美子	宇田 強	
(中学生)			
堀 ゆうら	土田 綺星	土田 悠月	
(小学生)			
土田 日陽里			

八 和楽器ユニット 音魂

〔演目〕蒼月・他（二十分）

新潟から全世界へ和楽器ユニット「音魂」和太鼓、篠笛、鳴物担当・本間 航（ホンマ ワタル）・田村 祐介（タムラ ユウスケ）津軽三味線・佐藤 悠紀（サトウ ユウキ）・佐藤 知（サトウ アキラ）それぞれがプロの演奏者として国内外問わず演奏活動をしている。

二〇一三年から始まった新潟の和の祭典「ART MIX JAPAN」を機に結成されたユニット。現代と伝統を融合した演奏をお楽しみ下さい。

〔出演者〕

本間 航	田村 祐介	佐藤 悠紀	佐藤 知
------	-------	-------	------

九 赤塚太々神楽保存会

〔演目〕刀舞（十分）

赤塚太々神楽には太夫（たゆう＝大人の）舞いが七つ、稚児（ちご）舞いが五つあり、毎年四月十五日赤塚神社春祭り舞いを奉納しています。

その中から今年刀舞を奉納いたします。刀舞は世の平安を願い、厄災消除を祈願する舞いです。出雲流の太々神楽が明治初期に伝えられたとされ、舞いは祈願や昔話に基づいており、地域の五穀豊稔と住民の無病息災・安全を願って奉納されます。今年十月十七日（土）佐潟公園病院祭で神楽を奉納予定です。

〔出演者〕

山川 潤	齋藤 陽一	小林 進一	玉木 尚弘
中野 一成	小林 康紀	仁多見将孫	
(小学生)			
杉本 新太	武田 拓真	渡邊 真音	吉川 詩乃

医療法人水明会 佐潟公園病院



十 酒屋御神楽保存会

〔演目〕 天宇須女命（十五分）

酒屋御神楽は、新潟市江南区の酒屋町に明治初頭から伝承継承されている、十二の舞がある出雲流の太々御神楽です。

酒屋町は、信濃川と小阿賀野川が交わる地域で、江戸末期に会津藩によって酒屋陣屋が置かれ、北越戊辰戦争の舞台となった場所です。

本日は、【天宇須女命（あめのうずめのみこと）】を舞います。この舞は御神楽の発祥とされており、

「天照大御神（あまてらすおおみかみ）」が「天の岩戸」に隠れたため、世の中は暗くなり災厄が続きました。

「天の岩戸」の前で、「天照大御神」のお出まし祈り御神楽が舞われました。鈴と扇子を持ち世の中の平穏を願う舞であります。

〔出演者〕

山賀 敏明	江部 明男	江部 勇	小野 正幸
上田 純司	浅間 和則	河野 東樹	小出麻貴子
北上 亜紀			



十一 沼垂木遣り太鼓会

〔演目〕 天下泰平（十分）

恒例八月十六日「沼垂まつり」は「喧嘩灯籠」と云われる程賑やかです。すでに二〇〇年以上もまれてきた氏神「白山さま」の神輿が氏子一軒一軒巡る伝統ある行事で各町内会の出す「献額灯籠」が十基以上で行列を作り、押し合いへし合いとなるお祭りです。それを支えるのが「ふれ太鼓」と「木遣り音頭」で「天下泰平」としてここに演奏いたします。

〔出演者〕

上野 喜政	上野広太郎	後藤 忍	鈴木 正樹
五反田 誉司	西山 大地	渡辺 勇樹	佐野 恵裕
本間 麻里子	後藤 央海	穴沢 悠水	佐野 千恵子
古谷 美花	佐藤理枝子	斎藤 恵理子	

激突!!沼垂まつり 八月十六日 十九時

十二 新崎伊佐弥神楽保存会

〔演目〕 新崎伊佐弥神楽・剣舞（十八分）

私達、新崎伊佐弥神楽保存会で北区新崎地域で活動しています。昭和四十六年より会を結成して以来四月及び八月に新崎、七月は蒲原神社に剣舞及び神楽奉納をして活動しています。二〇一一年には新崎地区開村五百年を迎え二〇一四年には獅子頭を新たに作成しました。今後も末永く伝承して行けるよう努力して行きます。

〔出演者〕

佐藤 学	佐藤真太郎	伊藤 浩明	伊藤 良夫
古山 勝彦	池田 勇	池田 敏弘	大島 正和
高橋 泰道	長井 修	高橋 綾子	高橋 由紀
長井 章			
(小学生)			
高橋 葉	新保 柏	高橋昇太郎	新保 滯
高橋 夏月	高橋 美雨		

十三 松浜盆踊り太鼓保存会

〔演目〕 松浜盆踊り（松ヶ崎盆踊り）（十三分）

松浜盆踊りは、従来北蒲原郡松ヶ崎村で「松ヶ崎盆踊り」と云われていました。歴史は九十年を超えており、その頃はラジオ・テレビの無い時代で年一回お盆から稲荷神社の祭りの間境内で夜を徹しての盆踊りが唯一の娯楽でした。又、大衆の集まりや親族の集まりなど祝いの締めには必ず盆踊りを踊ったと云われております。昭和五十一年松浜盆踊り太鼓として発足、当時太鼓は一人で叩いていましたが、現在は大勢で叩く太鼓に変え、政令市移行後は市内の各イベントにも参加して、活動の場が広がって来ました。

〔出演者〕

中村 希一郎	羽田 保	小島 正樹	石山 修二
池田 明美	寺山 知子	平岩 義則	梨本 直美
藤井 幸恵	斎藤 恵美子	羽田 麗奈	坂上 敏子
坂上 沙織	平岩 花子	玉木 孝知	
(高校生)			
伊澤 杏	藤井 小枝	羽田 珈月	中村 汰希
小澤 柊人			
(中学生)			
藤井 小麦	小野寺 嘉瑤	神蔵 楓	中村 咲江
(小学生)			
梨本 まりあ	羽田 宥心	和多田 来友	



きっとできる、もっとできる。
鳥屋野不動産

【本社】新潟市中央区鳥屋野2丁目13番22号
TEL:025-285-2900
【西支店】新潟市西区小新南1丁目2番1号
TEL:025-378-2070

公演の様子はYouTubeでもご覧いただけます。QRコードを読み取っていただくか、YouTubeで「新潟市伝承芸能保存会」と検索してください。

